

令和8年2月18日

三河教育研究会 社会部会

## これからの三河の社会科教育への期待 ～ 三河の教育を、社会部会が創る ～

西尾市立吉良中学校 兼子 明

- 1 はじめに
- 2 社会部会の強み
- 3 拙い実践からの気づき
- 4 次代の創り手に向けたエール
- 5 おわりに


令和8年2月18日(水)

三河教育研究会 社会部会

**これからの三河の  
社会科教育への期待**

～ 三河の教育を、社会部会が創る ～

西尾市立吉良中学校 兼 子 明



1


**1 はじめに**



2

**社会科** は


**面倒 !?**



3

**社会を**

**生きる力の育成**





4

**2 社会部会の強み**



5

**『社会科の現代像を求めて』**



6

戦後( X )年、社会科ほど幾多の変遷を経てきたものはないだろう。それだけに問題は山積みされ、多くの教師が、この中で悶え苦しんできたといえよう。

※『社会科の現代像を求めて』から一部抜粋



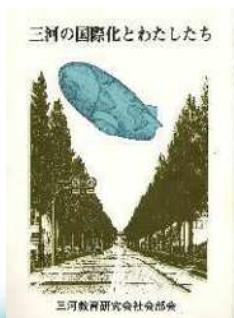
7

## 他の出版物



8

## 他の出版物



9

【 A 】型の



【 B 】な実践力



10



11

《 強み I 》

## 地域教材の活用

→ 三河独自の産業や歴史等を活かした「生きた教材」の開発



12

《 強みⅡ 》

## 現役教師の連帯感

→ 現場の先生方が主体となり、  
即戦力の学習指導案を共有



13

《 強みⅢ 》

## 主体的な学びの追究

→ 児童生徒が社会を自分事と  
して考える学びのデザイン



14

## 3 拙い実践 からの気づき



15

### 小学校

- 4年生:「安全な暮らし」  
→ 消防車の配置のシミュレーション
- 5年生:「わたしたちの暮らしと水産業」  
→ 地域の養鰻業から考える日本の現状
- 6年生:「江戸時代」  
→ 農民に出された御触書の活用



16

### 中学校

- 歴史的分野:「古代までの日本」  
→ 三河地方の古墳見学の位置づけ
- 地理的分野:「わたしたちの住む愛知」  
→ 「愛・地球博」を通して考える愛知の特色
- 公民的分野:「人権を考える」  
→ サッカーボールと児童労働との関係



17

学習指導案 検索  
～三河の魅力的な実践はココ👉～



18

## 社会科の基本は...

- ◆ どうなる？ & どうする？  
【 】の形成 【 】の育成
- ◆ わける、つなげる、ととのえる  
【分類】 【結合】 【整理】



19

## すぐれた授業実践は...

- 総合化・教科等横断化
- 手だての【 】化
- 学びのスロープ



20

## 「子ども研究」の視点から

- (1) 「まず子どもありき」のスタンスで
- (2) 単元をくぐり抜けた後の  
子どもの育ちを明確に
- (3) 学びにのめりこむ姿の表出を

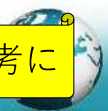


21

## 「教材研究」の視点から

- ① 弾力性のある単元構想で
- ② 独自性にあふれる教材開発が
- ③ 現実性が感じられる学習展開に

“FORの原則”を参考に



22

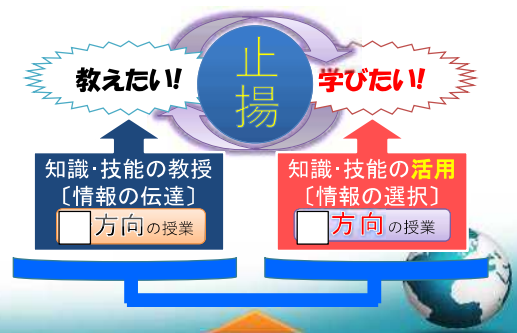
- ② 独自性にあふれる教材開発

教師は  
“学びの ”



23

## 自身の「授業観」を問い直す



24

## 4 次代の創り手 に向けたエール



25

優れた実践者である  
三河の先輩から



26

### 次代の社会科の要諦

- ✓ 問いを立てる力を育む
- ✓ 学びの二期化を防ぐ
- ✓ わからなさを生かす



27

## 5 おわりに



28

はじめに子どもありき

学習者の

【 】

三教研の

【 】

第17期の研究へ

29

社会部会が、



三河教育の

次代を創る



30